

りぼん 通信 SPARCS

平成 25 年 11 月 1 日発行 第 3 号

2013年度 外来・入院でのがん疼痛治療調査のご報告

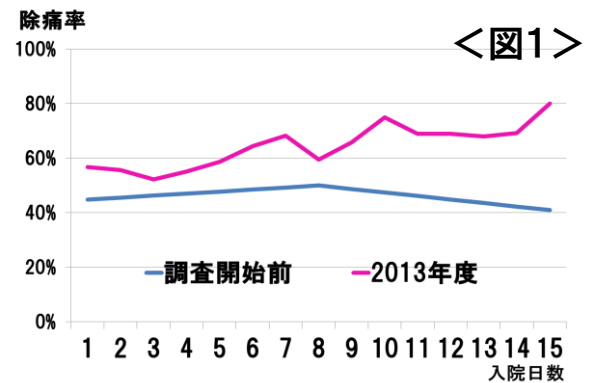
平成 25 年 4 月 16 日から、外来・入院を対象に「がん疼痛治療の施設成績を評価する指標の妥当性を検証する研究」(略称：SPARCS)を行いました。本調査には、外来：延べ 7,163 名(H25.4.16～8.9)、入院：延べ 728 名(H25.4.16～6.30)の患者さんにご協力頂き、誠にありがとうございました。今回の調査で分かったことについてお知らせいたします。

入院

入院の除痛率は、図 1 のように、痛みに関する取り組み前(2012.5～6)と比較して改善しています。これは、2012 年度から開始した「病棟の看護師が痛みについて毎日観察すること」「その結果を医師に報告するシステムづくりの整備」や「治療成績の評価」、そして患者さんと医師・看護師の協力によるものです。

※除痛率…治療によって痛みが取れた患者さんの割合

2012～2013年度における入院患者除痛率の変化



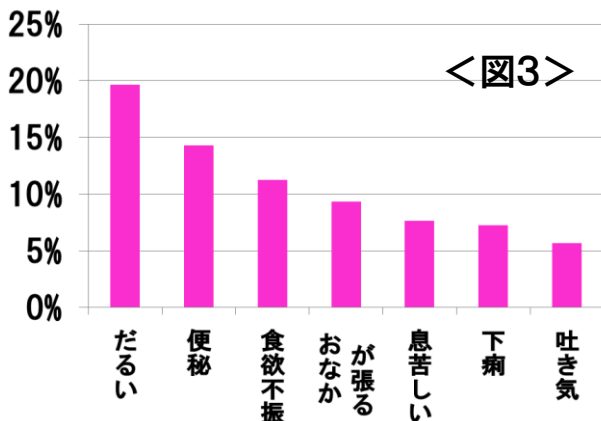
外来

当院に通院される外来患者さんの治療歴を調査したところ、延べ 7,163 名のうち、がん治療において、手術治療を受けている方が全体の 61%、化学療法が 64%、放射線療法が 21%という結果になりました。

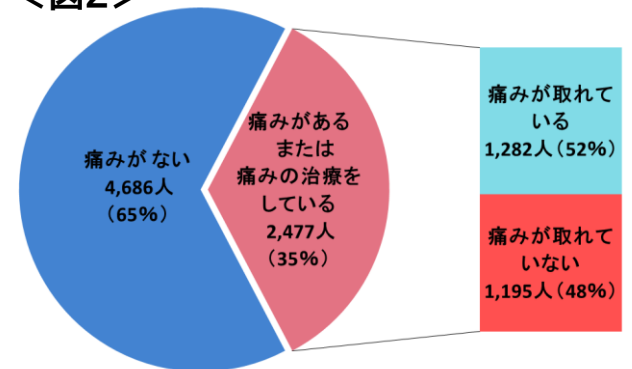
がん診療センター診療科(全 8 科)外来の除痛率は 52%、未除痛率は 48%で、調査対象の患者さんの約半分に「痛みで日常生活に支障が生じている」ことが分かりました(図 2 参照)。この除痛率は入院の除痛率と比較して低く、今後、外来での痛みの治療について検討していく予定です。

また、痛み以外の症状では(図 3 参照)、延べ 5,474 名のうち、「だるさ」を訴えらえる患者さんが最も多く全体の 20%を占めていました。次いで「便秘」14%、「食欲不振」11%などつらい症状が多く、安心・安楽に生活・治療に望めるようケア・ご相談に対応していくことが必要と思われます。

痛み以外の症状の内訳



＜図2＞



「聴かせてください、あなたの痛み。」

当院は、これからも患者さんの痛みを耳を傾け、痛みを評価するだけでなく、評価した結果を診療に役立てるシステムをつくり、患者さんの痛みの緩和・治療に真摯に取り組んで参ります。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

